

〔喚子鳥下〕粒餌小鳥の分 何にても水を入る

まめまはし ゑがひ すりゑ四分五よし

大ききひよ鳥にちいさくかしらくろく、總身うすねすみいろ尾羽くろし、はし黄いろにて太し、

さゑづり高音なり、冬いづる、

小まめ鳥 島まめともいふ ゑがひ まめまはし同断

大ききまめまはしに半分ちいさし、毛色諸事まめまはしにかはる事なし、まれに来る、

〔飼鳥必用下〕いかる

此鳥秋澤山渡る鳥也、日光山より出る、當地摩に而もとれる、此鳥背みがき背とて貳通有黄色

なるは親鳥、黒背は雛なり、後には黄色の背になる、勿論啼音に善悪有餌飼麻の實後に摺餌三分

餌なり、

〔萬葉集十三歌〕近江之海、泊八十有、八十島之島之、埼邪伎、安利立有花橋乎、末枝爾、毛知引懸、仲枝爾、伊

加流我懸、下枝爾、此米乎懸己之母乎、取久乎不知己之父乎、取久乎思良爾、伊蘇婆比座與、伊加流我

等此米等、

〔枕草子三〕鳥は

いかるがのをどり

〔古今著聞集二十禽獸〕二條中納言宣高卿いかるがを、家隆卿のもとへをくるとてよみ侍ける、

いかるがよまめうましとはたれもさぞひしりこきとは何をなくらむ

〔倭名類聚抄十八名〕鶉 陸詞切韻云、鶉、音黠、又音琴、漢語抄云、比米、白喙鳥也、

〔箋注倭名類聚抄七名〕萬葉集雜歌、仲枝爾、伊加流我懸、下枝爾、此米乎懸、軍王歌、左注、斑鳩、此米二

鳥大集、按此米蓋比米之譌、恐非下條之米、今俗有小鳥呼之由米者、其喙與以加流賀略同、是亦比